

シンポジウム35

がん患者の骨粗鬆症治療を考え

日時	2026年9月13日(日) 10:30～12:00
会場	第4会場（4F 国際会議室（マリンホール））
座長	川島 寛之（新潟大学大学院 機能再建医学講座 整形外科学分野） 吉原 弘祐（新潟大学医歯学総合病院 産婦人科）
単位	日本骨粗鬆症学会：認定医教育研修単位 / 日本産科婦人科学会：領域講習単位

セッション概要

がん治療関連骨減少症（CTIBL）を軸に、がん治療が骨代謝に及ぼす影響と薬物治療、多発性骨髄腫の骨病変、乳がん・婦人科がんサバイバーの長期的な骨管理、顎骨壊死を巡る医歯薬連携までを横断的に取り上げ、がん患者の骨健康管理を考える。

演題プログラム

3-SY35-1	がん患者の骨代謝と骨粗鬆症治療 土江 博幸（秋田大学大学院整形外科） CTIBLの病態と乳癌・前立腺癌での骨吸収抑制薬の有効性や長期使用の課題を整理し、肉腫を含む自験の骨代謝研究を報告する。
3-SY35-2	多発性骨髄腫患者に合併する骨病変の治療 瀧澤 淳（新潟大学医歯学総合病院 血液内科） 多発性骨髄腫の骨病変の発症機序と診断基準を示し、多剤併用療法や移植の位置づけ、ゾレドロン酸・デノスマブによる支持療法を解説する。
3-SY35-3	乳がん治療と骨粗鬆症 —Cancer Treatment-Induced Bone Loss（CTIBL）への対応— 寺内 公一（東京科学大学大学院 茨城県地域産科婦人科学講座） タモキシフェンやアロマトマーゼ阻害薬が骨密度と骨折に及ぼす影響を整理し、CTIBL診療マニュアルを踏まえた評価・予防・治療戦略を示す。
3-SY35-4	婦人科悪性腫瘍治療後の骨粗鬆症-骨量減少のリスク評価と長期管理- 小林 範子（北海道大学病院婦人科） 外科的閉経や卵巣機能障害による骨量減少のリスク評価とベースライン測定を示し、生活指導や薬物療法、HRTを含む長期管理を概説する。
3-SY35-5	がん患者の骨粗鬆症治療における医歯薬連携 新美 奏恵（新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科） 骨修飾薬によるMRONJの経緯と予防・治療を整理し、自院の口腔管理治療部への紹介患者実績を交えて医歯薬連携の要点を示す。